平成２８年　第７回教育委員会会議

１　日　時
平成２８年６月２２日（水）
開会　１０時００分
閉会　１０時３０分

２　場　所
教育委員会室

３　出席者
田中新太郎教育長、金田清委員、中村健一委員、横山真紀委員、眞鍋知子委員

４　説明のため出席した職員
新屋長二郎教育参事、脇田明義教育次長、竹中功教育次長、齋田正活教育次長、平畠敏彦教育次長兼教員指導力向上推進室長、小浦寛教育次長兼学校指導課長、池田誠庶務課長、杉中達夫教職員課長、篠原恵美子生涯学習課長、浅田隆文化財課長、徳田伸一スポーツ健康課長

５　議案件名及び採決の結果
提出議案なし

６　報告案件
第１号　平成２９年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況について
第２号　平成２８年３月石川県公立高等学校卒業者の進路状況について
第３号　国史跡の追加指定について

７　審議の概要
・開会宣告
田中教育長が開会を告げる。

・質疑要旨
以下のとおり

報告第１号　平成２９年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況について
（杉中教職員課長説明）

報告第１号「平成２９年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況について」ご説明をいたします。
この試験につきましては、去る５月１２日から出願の受付を開始し、６月１日に受付を閉め切りました。このたび志願状況がまとまりましたので、ご報告させていただきま

す。お手元の資料１ページをご覧願います。まず、１の教諭等の志願状況についてであります。志願者総数は１４６２人で、前年度より４４人少なく、全体の倍率は前年度より０．１ポイント低い４．６倍となっております。

受験区分別の状況でございますが、小学校教諭等につきましては、昨年と同じ１５５人の採用見込のところ、昨年度より７人少ない４８０人の志願があり、倍率は３．１倍で、倍率としては昨年度と同じ倍率となっております。

中・高等学校教諭等につきましては、昨年度より５人少ない１５０人の採用見込のところ８６９人の志願があり、倍率は５．８倍であります。昨年より、志願者数が５８人の減、倍率は０．２ポイント低くなっております。

養護教諭につきましては、昨年度より５人多い１５人の採用見込のところ、１１３人の志願があり、倍率は７．５倍であります。昨年より、志願者数が２１人の増、倍率は１．７ポイント低くなっております。

以上のとおり、昨年度と比べ志願者が４４人減少した訳でございますが、その要因としましては、大学の新卒者については、実施案内の配布を昨年度より早め、大学での説明会を実施したことによりまして、民間の就職状況が好転する中でも、昨年を若干超える志願者数を確保できたところでありますが、一方で、大学を既に卒業した既卒者の志願者数は、昨年度に引き続き志願した者は前年度比５人の増となっているものの、昨年度受験しないで今回新たに志願した者は前年度比５１人の減と、大幅な減になっております。

これは景気の好転により、民間勤務者等からの志願が減少したこと等によるものではないかと考えており、これが４４人減少の大きな要因と捉えております。

来年度以降の志願者数確保につきましては、春と秋に実施している大学訪問の充実を図るとともに、１月に県庁で実施している採用試験説明会では、既卒者が大幅に減少したことを踏まえまして、これまでの新卒者に加えて新たに民間勤務者や就職浪人の方々も新たに参加を可能にするなど、対策を講じていきたいと思っております。

次に、２の栄養教諭につきましては、任用替え見込数４人程度に対し、志願者数が１１人、倍率は２．８倍となっております。以上でございます。

【質疑】

（中村委員）

志願者数が減ったとかという心配は、平成２９年度という中では大変厳しい環境というか、リクルート的な面も、民間も大変人の取り合いが随分ありましたが、平成３０年度は随分変わってくると思います。完全に民間は不況に入りましたので、今からより不況度が強くなってきます。従って、３０年度はもう少し状況がいい中でいい人材が採れる。それだけ世の中の経済が厳しくなっていると感じますから、そういう方向だと思います。３０年度の心配は、それほど要らないのではないかという感じはします。

（田中教育長）

ありがとうございます。私どももびっくりして、なぜこんなに減ったのかというと、やはり講師経験者の受験者の志願者が減っていない、新卒も減っていない。ではなぜこんなに減ったのかというと、やはり既卒者なのです。そうなるとやはり、民間の採用が良くなった中で、何がなんでも教員を目指すという人ではない人が少し流れた。新卒で教員を目指す人と、講師をやりながら教員を目指す人が、こんな中でも昨年を若干上回

るだけ確保できたという意味では、教職に意欲のある方は何とか昨年並み以上に確保できたので、少しほっとはしています。ただ、トータルとして減ったということが数字で出るものですから、いろいろ教職員課に分析してもらったのですが、明らかにそこが減っているということでした。

（金田委員）
教職員課長、大学の方で教職の単位が取りにくいということはあるのでしょうか。

（杉中教職員課長）
大学の具体的な単位の取得については詳しくはないのですが、志願者数につきまして、新卒の志願者につきましては、ここ３年連続で増加してきているということがありますので、教員への意欲のある学生は現在もいらっしゃって、増えてきている状況だと捉えています。

（田中教育長）
特に中高で減ったというから、多分そうではないかという予想で調べてもらったのですが、やはり教員の養成課程系以外の、通常の学部の卒業生の皆さんが、やはり減ってきているのかなと思います。

（田中教育長）
この間、大学で教員を目指している人たちに講演をしてきたのですが、教職は使命感が大事だとか責任が重いと自分でしゃべりながら、あまり驚かすと学生は嫌がるのではないか。逆にやりがいとか楽しみとか、そういうことも強調しなければいけないなと。そうかといって、あまり軽い気持ちで教職員を目指してもらっても困るし、両面をうまく学生にアピールしなければいけないのかなと。大変な仕事だけれどもやりがいがあるということかと、自分でもセミナーで話しながら思いました。あまり脅かし過ぎると先生は大変そうだなとなるので、その辺は学生に教職の魅力をどんなふうにアピールするかというのは県教委全体で少し工夫しながら、学生にうまく訴えていかなければいけないと思います。

（横山委員）
今の教育長のお話にプラスしてなのですが、何かを募集するときのための言い回しみたいなものは、本当におっしゃったように、もちろん責任を持ってとか、強い使命感というものも抽出してそこに植えたいのだけれども、あまり厳し過ぎても夢も何もないのかということでがんじがらめになる。その両者がある中で、どこかに何か助けがないのかなと思ったら、今の若い方にしかない発想とか、そういったもので本当に業界の膿（うみ）ではないですが、業界には今こんな問題があるのだ、一緒に、共に若い感性を混ぜ合わせて育てていってほしいのだと、その辺の共感度を高めるということが一つの策としてあるというお話を、たまたま先日、セミナーではありませんが、ちょうど聞いてきたところです。

（田中教育長）
学校訪問などでも若い教員と話をする機会を作っていきたいと思っていて、「あなた方が新しい、若い、先入観のない感覚で、いろいろと学校の中でも意見を言ってほしい」

ということを、この間、ある学校では言ってきたのですけれども、学校の中でも若手は若手でもっともっと発言しろよということも言っていきたいと思っています。

（中村委員）
　世の中の流れが、先生に対しての尊敬というか、人は平等だけれども対等ではない。生徒と先生は当然、上下関係というか、教える者と教えていただく者の差はあるので、その辺が今の世の中には欠けている。先生に対する敬意とか尊敬の念を、もっともっと教え込まなければいけない。何となく親からいい加減な世代になっていますから、そういう面では子どもの教育もなかなか十分できていません。やはり教職は大変重要なものなので、もう少し尊敬されるべきだと思うのです。人にものを教えるというのは尊いことですから。日本全体が変わっていかないと、なかなか難しいとは思いますけれども。

（田中教育長）
　教員の資質向上も合わせてやって、信頼されて尊敬されるということを目指して、教員もしっかりしなければいけないと思います。

報告第２号　平成２８年３月石川県公立高等学校卒業者の進路状況について
（小浦教育次長兼学校指導課長説明）

　報告第２号「平成２８年３月石川県公立高等学校卒業者の進路状況について」ご報告します。資料の２ページをご覧ください。
　はじめに、全日制課程についてです。卒業者は７３９９名で、前年より２１９名の減少となっております。そのうち、大学・短大進学者は３９４３名で、前年より１０８名の減少ですが、卒業者全体に対する割合は５３．３％と、前年５３．２％とほぼ同じです。さらに、その中の四年制大学進学者についても、３３９４人で進学率４５．９％ですが、これも前年４６．０％とほぼ同じです。そのうち、国公立大学への進学者は１３５７人、進学率は卒業者全体の１８．３％となっています。短大進学者については、今年度の進学者数は５４９人、進学率は７．４％と、前年度とほぼ同じです。また、専修学校・各種学校等への入学者は１４１１名で、前年より１４７名の減少となっております。
　就職についてですが、１８８０名と前年より５９名の増加、割合は２５．４％と１．５ポイント増加しました。県内就職者数の増加が、就職者数全体の増加につながっていると考えられます。また、就職者数・割合の増加は、先ほど述べました専修学校等入学者の減少にも関係していると思われます。
　次に、定時制課程についてです。卒業者は１３８名で前年より１名の増加です。大学進学者は３名増の１５名、短大進学者は１名増、専修学校等への入学者は２名減、就職者は３名増となっております。なお、自宅浪人や一時的な仕事についた者など、「その他」については４６名と、４名の減ではありますが、昨年と同様、高い割合となっています。
　次に、通信制課程です。卒業者については１０９名で前年より１名減となっておりますが、専修学校・各種学校等への進学者は前年より１４名多い３２名、就職者数も前年より５名多い２８名となっております。また、その結果として、「その他」が前年より２３名減の２４名と大きく減少しております。入学段階から一人一人の適性に応じた丁

寧な進路指導を行ってきたことと、求人状況が良好なことから、進路が決まった生徒が多くなったものと考えております。
　以上、まとめますと、進学については、全日制課程においては概ね例年通りですが、就職者の増・専修学校等の減というのが今年の特徴です。定時制・通信制では、大学・短大進学者・就職者共にやや増加しています。
　各学校には、四年制大学・短大から専門学校まで多様なニーズを持つ生徒がおります。生徒、保護者の希望に応えるべく、学習指導や進路指導に力を尽くしているところであります。さらに就職については、公立高校の３月末の就職内定率が９９．８％と、６年連続で９９％台となっています。これは、生徒や学校教職員の頑張りはもちろん、多くの関係機関と連携した支援策の成果と考えております。
　今後も、生徒が主体的に進路を選択し、早期離職が少しでも減るように、適切な職業観・勤労観を育成するなど、キャリア教育の充実を図っていきたいと思っています。以上で報告を終わります。

【質疑】
（中村委員）
　大学のうち、国公立、私学の分で、県内の大学に行ったのは何％ずつですか。

（小浦教育次長兼学校指導課長）
　石川県内の四年制大学への進学者数の割合は２１．２％です。これについて過去３年を見ますと、昨年が２０．９％、一昨年が１９．９％ということで、少しずつ増えています。

（中村委員）
　国公立は何％ですか。

（小浦教育次長兼学校指導課長）
　国公立については、割合で言うと今年は１８．３％でした。昨年は１８．８％、一昨年が１８．１％と、少しでこぼこがある形になります。

（真鍋委員）
　区分のところの大学、短大進学者というのは、国内の大学・短大という理解でよろしいでしょうか。

（田中教育長）
　外国の大学へ行った人がいるのかということですか。

（真鍋委員）
　そうです。

（小浦教育次長兼学校指導課長）
　外国の大学へ高校から直接行った子はいないと思います。

（真鍋委員）
「その他」のところの、先ほど定時制だと自宅浪人などとおっしゃいましたが、全日制の「その他」にはどのような方がおられるのでしょうか。

（小浦教育次長兼学校指導課長）
全日制の「その他」ですが、先ほど申しました自宅浪人とか一時的な仕事についた者はもちろんいるのですが、それ以外に多いのは体調不良など不登校傾向で自宅にいるという生徒の割合が多いです。

（真鍋委員）
不登校とか体調不良の方への卒業後のサポートとか、公的な支援に何か結びつけているとか、その辺りの事情は分かりますか。

（小浦教育次長兼学校指導課長）
ジョブカフェとか、いろいろなところからの後の支援とかも学校にもいろいろ来ていますので、そういうつながり、あるいは卒業生と言いながらも学校とのいろいろなつながりもありますので、そういう形で支援はしていくということになっていると思います。

（真鍋委員）
社会的にも問題として大きくなりつつあると思いますので、卒業したからといって放ったらかしにしないような仕組みを求めていきたいと思います。

（田中教育長）
学校の進路指導の先生は、卒業してからでもつながりを持ってやっていますし、商工労働部とか労働局でもいろいろやっていますので、そんなところへつなぐということだと思います。予備校へ行くと専修・各種学校の分類に入りますが、経済的なこと等があって、予備校に通わずに自宅で勉強するという子どもさんもたくさんいらっしゃるみたいです。

（中村委員）
全日制過程の専修と各種学校の中での予備校は、何％なのですか。

（小浦教育次長兼学校指導課長）
予備校の生徒数で言うと、予備校へ行っているのが県内、県外含めてこの３月で４１９人です。

（田中教育長）
先ほど学校指導課長が説明の中でも言いましたが、就職関係が良くなったので、高校を卒業して正規でも採用されるということで就職者が増えて、その分ちょっと影響が出ているのが専修学校・各種学校への進学者かと思います。それから、良い方向としては「その他」が少し減っています。特に今回、特徴的には、母数が小さいので特別なことは分析できないのですが、通信過程でも近年ない数字になったということが特徴かなと思っています。
中村委員がおっしゃるように、来年以降、就職環境が変わるとまた数字が動くのかな

と。そこは大きく影響してくるのだろうと思います。

報告第３号　国史跡の追加指定について
（浅田文化財課長説明）

報告第３号「国史跡の追加指定について」、資料３ページよりご説明申し上げます。
去る６月１７日に開催されました国の文化審議会におきまして、史跡「東大寺領横江荘遺跡」に追加指定を行うよう、文部科学大臣に答申がなされました。史跡の概要について、ご説明申し上げます。
横江荘は、桓武天皇の皇女である朝原内親王の遺領であった土地が弘仁９年（８１８年）に東大寺に寄進されたもので、正倉院蔵の東大寺文書に記載されている荘園です。東大寺領横江荘遺跡は、その存在を実証する遺跡として、国史跡に指定されております。
今回、計画的に配置された多数の倉庫群や、回廊を伴った寺院的施設等の重要な遺構が存在する地点について追加指定し、一体的な保護を図ろうとするものであります。
県内の国指定史跡の件数ですが、追加指定ですので、２６件のまま変更はございません。次のページに地図等を載せていますが、８号線の御経塚のところから高速道路に向けてのちょうど中間辺りになります。次のページに上空からの写真がありますが、赤の縁取りしたところが、今回、答申が出たところで、現在は主に田んぼになっております。次の６ページに建物の跡がありますが、上段が寺院的施設の門跡と塀跡で、下が倉庫跡です。以上です。

【質疑】
（田中教育長）
場所は５ページの写真が一番分かりやすいと思います。縦に海側幹線が通っていて、右上に斜めに高速道路が通っていて、この右側が御経塚のイオンになります。場所はそういうところです。
荘園があったことを証明する遺跡としては日本でも一番古いものです。その辺を説明してください。

（浅田文化財課長）
もともとここは田んぼということで、農作業をされている方から、いろいろな遺物が発見されるというのが、以前からずっとこの地域で言われていたところです。今回は東大寺の文書の中にこの荘園のことが記載された事項があって、この辺りでは以前からそういう話は受け継がれていたようです。ここについては、工業団地を作るということがあり、それに伴って発掘調査をしたところ、貴重な遺跡が出てきて、昭和４７年３月１４日に荘園遺跡としては国の遺跡に初めて指定されたという経緯があります。

（田中教育長）
その後の発掘調査で、新たにまたいろいろな遺構が出てきたので、地域を拡大して文化指定をしてもらうということです。

（中村委員）

工業団地はできないということですね。

（浅田文化財課長）
指定されますとそこは保存をしていくということで、現在は私有地というか個人のものなのですが、ゆくゆくは保存管理計画を作り、恐らく公園整備になると思うのですが、公有地化もかかっていくのではないかと思います。

（金田委員）
これを一度止めて、その跡に工場を作るというわけにはいかないのですね。

（田中教育長）
遺跡の指定まで受けたのですから。

（中村委員）
受けておいてやったら大変なことです。

（金田委員）
歴史的には値のあるものです。課長、この辺りはみんな東大寺ですか。

（浅田文化財課長）
そうです。東大寺になります。名前をお借りしています。

（金田委員）
そうしたらほとんど石川県は東大寺へみんな寄進している形でしょうか。

（浅田文化財課長）
ここのエリアは。

（金田委員）
かなり広いエリアですね。これは白山市ですか。

（田中教育長）
白山市で、一部野々市です。今指定されているのは、全部白山市地内です。

（浅田文化財課長）
追加は全部白山市です。

・閉会宣言
田中教育長が閉会を告げる。